



子どもたちにとって本は
“夢の世界”。コロナ禍前は
こうした光景もあちこちで

秋も読書しませんか!

ページをめくるたび、新しい世界が次々と現れる。複雑怪奇な人間関係、手に汗握るサスペンス、これまでになかった考え方。だから、本は「扉」だ。さまざまな“未知”に通じ、開ければ視野を広げてくれる。暑さも和らぐ秋の夜長は、心を落ち着け、じっくりと読書の時間を。